

令和8年4月臨時会で新しい副議長が決まりました

令和8年4月臨時県議会（会期：4月21日～4月23日）において副議長の選挙が行われ、第87代副議長に古賀陽三議員が就任されました。
また、競馬組合議会議員の選挙、各常任委員会、各特別委員会及び議会運営委員会の委員の選任並びに正副委員長の互選が行われました。



委員会構成等

- ◆議長：宮原 真一（令和7年4月24日選出） 副議長：古賀 陽三（令和8年4月23日選出）
- ◆常任委員会

委員会名（定数）	委員長	副委員長	委員（年齢順）
総務常任委員会（10人）	西久保 弘克	富田 幸樹	大場 芳博、土井 敏行、原田 寿雄、徳光 清孝、田中 秀和、藤木 卓一郎、古賀 陽三、下田 寛
文教厚生常任委員会（9人）	青木 一功	一ノ瀬 裕子	武藤 明美、八谷 克幸、岡口 重文、野田 勝人、指山 清範、中村 圭一、古川 裕紀
農林水産商工常任委員会（9人）	桃崎 祐介	弘川 貴紀	石井 秀夫、石倉 秀郷、酒井 幸盛、坂口 祐樹、藤崎 輝樹、木村 雄一、石丸 太郎
地域交流・県土整備常任委員会（9人）	古賀 和浩	猪村 利恵子	留守 茂幸、木原 奉文、池田 正恭、定松 一生、中本 正一、江口 善紀、宮原 真一

- ◆議会運営委員会（定数11人）

委員長	副委員長	委員（年齢順）
定松 一生	古川 裕紀	大場 芳博、土井 敏行、木原 奉文、岡口 重文、野田 勝人、弘川 貴紀、富田 幸樹、坂口 祐樹、下田 寛

- ◆特別委員会

委員会名（定数）	委員長	副委員長	委員（年齢順）
佐賀空港・有明海問題対策等特別委員会（12人）	田中 秀和	石丸 太郎	武藤 明美、石倉 秀郷、池田 正恭、野田 勝人、定松 一生、西久保 弘克、指山 清範、江口 善紀、坂口 祐樹、青木 一功
新幹線・地域交通問題対策等特別委員会（11人）	留守 茂幸	藤崎 輝樹	石井 秀夫、土井 敏行、木原 奉文、岡口 重文、徳光 清孝、中本 正一、弘川 貴紀、猪村 利恵子、古川 裕紀
高等教育機関問題対策等特別委員会（12人）	下田 寛	木村 雄一	八谷 克幸、大場 芳博、酒井 幸盛、原田 寿雄、富田 幸樹、古賀 和浩、藤木 卓一郎、中村 圭一、一ノ瀬 裕子、桃崎 祐介

- ◆監査委員（定数1人）坂口 祐樹（令和8年4月23日選任）
- ◆競馬組合議会議員（定数3人）徳光 清孝（令和5年5月11日選出）、八谷 克幸、指山 清範（令和8年4月23日選出）

主な内容	令和8年4月臨時会の概要	1
	令和8年2月定例会の概要、本会議質問	2～6
	委員会の概要 各常任・特別委員会の主な審議事項など	7～8

「佐賀県議会映像配信」や「会議日程」、「会議録」などがご覧いただけます。

佐賀県議会 検索



議案に対する議員の表決態度（賛否）は、県議会ホームページで公表しています。（佐賀県議会 → 議案等の審議結果 → 議案件名一覧）



令和8年 2月定例会 概要 (会期 2月13日～3月16日)

令和8年2月定例県議会では、令和8年度一般会計予算案など78件の議案等が審議され、予算議案及び条例議案等73件、意見書案4件が可決、承認されたほか、人事議案1件が同意されました。

○令和8年度当初予算関係

- ・令和8年度佐賀県一般会計予算（総額約5,470億6,600万円、対前年比6.6%増）など計17件

○令和7年度補正予算関係

- ・令和7年度佐賀県一般会計予算（増額後総額約5,682億9,200万円、対前年比3.2%増）など計18件

代表質問

各議員が行った質問の中から一部を紹介いたします。



自由民主党
富田 幸樹 議員
唐津市・玄海町選出

健康福祉行政について



24時間体制が求められる周産期医療については、昨年、唐津赤十字病院の産婦人科医の退職が地域で問題となるなど、体制確保に不安な面もある。子どもを安心して産み育てていける環境を確保していく上でも、周産期医療体制は重要な課題であると考えます。



県民が安心して産婦人科、周産期医療を受けられるように、大学や医師会、産科医の専門家団体、市町等と協力し、持続可能な周産期医療提供体制の在り方について、さらに検討を進めていきたい。

周産期医療提供体制の確保は重要なミッションである。安心して子どもを産み育てることができ環境をしっかりと守っていくために全力で取り組む。



質問の字

他の質問項目▶ 県政運営の基本方針／財政運営／県立大学／九州新幹線西九州ルート／女性に選ばれる佐賀県の実現／防災・減災対策／産業の振興／農林水産業の振興／社会資本整備／教育行政／警察行政



自由民主党ネクストさが
岡口 重文 議員
伊万里市選出

県政運営と財政運営について



佐賀県は知事の力強いリーダーシップの下に、着実によい方向へ向かっていくと思うが、山口県政11年の成果、三期目の残り1年について、県全体の発展をどのように進めていくのか。

また財政においても将来を見据えた責任ある運営がなされる必要があると思うが、現在の財政状況の認識と今後の見通しも伺う。



佐賀の将来を見据えた施策を戦略的、重層的に展開。最近では佐賀を誇りに思う若い人が増えていると感じる。佐賀県は人口減少のスピードが緩やかで全国的に見ても相対的に健闘。公示地価も全ての区分で4年連続上昇。県全体を大きく前進させていくため各地域の価値を磨き上げ、積極的に新たなチャレンジにも取り組む。

将来負担比率は全国10位台で推移する見通しで財政調整積立金も令和8年度末で約130億円を確保する見通し。県内経済が発展し、更なる施策の財源に繋がるという好循環をつくりだしていきたい。



質問の様子

他の質問項目▶ 県立大学／九州新幹線西九州ルート／スポーツの振興／文化・観光の振興／山の博覧会・全国都市緑化フェア／環境問題／産業の振興／農林水産業の振興／社会資本整備／男女共同参画／福祉行政／教育行政／警察行政



県民ネットワーク
藤崎 輝樹 議員
佐賀市選出

農業を支える人づくりにについて



農家や農業従事者が急速に減少しているという現状に強い危機感を抱いている。後継者や就農希望者の意欲を高め、雇用労働力を確保しつつ経営を発展させていくためにも、しっかりと稼いでいただくことが重要である。

そこで、農業を支える人づくりについて、今後どのように取り組んでいかれるのか、知事の所見を伺いたい。



農業において、何よりも大切なのは人づくりであり、農業で稼ぐ担い手の確保、育成に向けて、トレーニングファームや園芸団地の整備拡大など、様々な取組みを進めてきた。

雇用人材の確保も重要で、農業の職場環境の改善に必要な施設整備等に対する支援の予算を今議会に提案させていただいている。農業を支えていくためには生産者だけでなく、都市部の消費者の理解を広げていくことも欠かせない。

若い人たちが将来に希望を持って活躍する新たな時代の佐賀県農業を築いていきたい。



質問の様子

他の質問項目▶ 県立大学／人口減少社会／高齢化社会／佐賀市のまちづくりに対する県の関わり方／教員がやりがいを持てる学校環境／治安対策

質問議員 ※質問順

代表質問

2月20日(金)

- 富田 幸樹 (とみた こうき)
- 岡口 重文 (おかぐち しげふみ)
- 藤崎 輝樹 (ふじさきてるき)

一般質問

2月25日(水)

- 猪村 利恵子 (いむらりえこ)
- 一ノ瀬 裕子 (いちのせ ゆうこ)
- 徳光 清孝 (とくみつ きよたか)
- 木村 雄一 (きむら ゆういち)
- 古賀 和浩 (こがかずひろ)

2月26日(木)

- 西久保 弘克 (にしくぼ ひろかつ)
- 江口 善紀 (えぐち よしのり)
- 中村 圭一 (なかむら けいいち)
- 田中 秀和 (たなか ひでかず)
- 古川 裕紀 (ふるかわ ひろのり)

2月27日(金)

- 池田 正恭 (いけだ まさやす)
- 酒井 幸盛 (さかい ゆきもり)
- 石丸 太郎 (いしまる たらう)
- 古賀 陽三 (こが ようぞう)
- 木原 奉文 (きはら ほうぶん)



各議員の質問一覧は「佐賀県議会映像配信」で確認ください。

各議員の質問の様子(二次元コード)を読み取れないときは、カメラのズーム機能を利用してお試しください。

一般質問

各議員が行った質問の中から一部を紹介いたします。



自由民主党 猪村 利恵子 議員 武雄市選出



森林資源の活用について

問 佐賀県は、森林に占めるスギやヒノキなどの人工林の割合が全国1位であり、これらの多くが伐採期を迎えているものの、十分活用されていない状況にある。

一方で、実家の空き家化をはじめとした住宅問題が人口減少の進行に伴い顕在化してきている。これらの課題は、森林政策・住宅政策・人口減少対策というそれぞれ分野にまたがるものであるが、県産木材を活用した住まいづくりを軸に据えることで、一体的な取り組みが可能であると考ええる。

答 ついては、この点に着目した佐賀型の新たな制度を創設するなど、部局横断的な取り組みについて、検討・推進していただきたい。



建築関係者や木材供給者で構成する「さがの木」の建築推進協議会」を設立し、中・大規模建築物の木質化を推進している。また、県と企業団体とのさがの木パートナー協定を締結し、企業等による木質化も推進している。

今後さらに企業、団体や市町などと協力し、庁内でも部局横断的に県産木材の利用促進に努めるとともに、県の取組みを県内外に発信していく。



自由民主党 一ノ瀬 裕子 議員 佐賀市選出



児童相談所における環境整備について

問 中央児童相談所が入る佐賀県総合福祉センターは築40年以上経過している。

児童相談所は、子どもと家庭が深刻な事情を抱え、不安な状況で訪れる場所であり本来は安心できる場所であればならないと思う。暗くて怖い、入りたくないと感じる子どもがいるとの声もある中、環境も支援の一部であると思うが、子どもたちの心理的安全性に配慮した環境整備についてどのように取り組むのか。



答 子どもが安心して来所できる施設の雰囲気を整えることは、子どもの心身の安全と健全な成長を見守る児童相談所の役割を果たすうえで重要なことだと認識している。議員のご指摘も踏まえて、職員の意見や「かがデザイン」の視点も取り入れながら、床の張り替えや子どもが安心できる施設となるような空間づくりに取り組んでいく。



エントランスの黒ずんだ床

他の質問項目▶ 「輝ける女性施策」を通した佐賀県づくり / 県立大学 / 文化観光の推進 / 高校生の進学に向けた支援



県民ネットワーク 徳光 清孝 議員 佐賀市選出



「司書県さ」の取組みについて

問 令和11年度に114年ぶりに全国図書館大会を佐賀県で開催すると表明された。この開催を一過性のものとせず、図書館の重要性を県民が再認識し、司書が生き生きと仕事をしながら、多くの県民が図書館を利用する環境をつくり出してもらいたいと願っている。

司書県さがが推進事業の取組みについて、目指す目的は何か。また、具体的にどのように取り組むのか。



答 司書は、図書館の演出家であり、本との出会いを通して新たな場所、知らない世界へと導く人生のナビゲーターである。司書が自らの仕事に誇りを持ち、これまで以上に生き生きと輝いて活躍する「司書県さが」の実現が、佐賀県の読書環境づくりにつながるものと考えている。

具体的な取組みは、①佐賀女子短期大学と連携し、司書のスキルアップを図る3つのコース(司書資格取得、学校図書、継続的まなび)開講、②司書の活躍に光を当て、県民に広く知っていただく情報発信、③令和11年に開催予定の全国図書館大会佐賀大会に向けた準備の三つの柱で構成している。

他の質問項目▶ 財政運営 / DNA型鑑定不正問題 / コスメティック構想の県民への浸透 / 教育問題



公明党
木村雄一 議員
唐津市・玄海町選出



質問の様子

ツール・ド・九州の開催について

問 10月10日に福岡県と共催する国際自転車ロードレース「ツール・ド・九州2026」の開催に向けて準備が進められていると思うが、2027年大会の開催準備や機運醸成の予算案も上程されている。2027年の開催には唐津以外の地域も含めたコースや、レースの迫力を体験しやすい周回コースの配置などを希望する声も既にある。大会を今後につなげていくことが重要だと思うが、2027年大会についてどのように考えているのか。

答 「ツール・ド・九州」は九州各県と経済界が一体となって取り組む広域プロジェクトであり、2026年大会に向けて、現在は唐津市や大会事務局と連携しながら準備を進めている。今後も、時期を捉えて情報発信し、機運醸成を本格化させていく。2027年大会は、大会事務局で全体構成の検討が始まったところであり、参加県や開催形態、日程などは未定であるが、本県としては継続参加を考えており、佐賀県にとつて一番いい発信となるよう、開催効果を最大化する形の展開を検討していきたい。

他の質問項目▶ 唐津・玄海エリアの魅力発信／入院中の子どもへの付添い環境改善／県道虹の松原線の安全確保／SNS上のいじめ動画拡散



自由民主党ネクストさか
古賀和浩 議員
二養基郡選出



質問の様子

県内のローカル鉄道について

問 県内のローカル鉄道は、県民の日常生活を支える大切な移動手段である。県境をまたぐ路線も多く、観光や地域活性化に欠くことができない非常に重要な社会基盤であるが、取り巻く環境は一層厳しさを増している。今後も甘木鉄道等のローカル鉄道を存続していくためには利用促進が重要であるし、それを後押しする環境整備が最も必要。できる限り支援してほしいが、県内ローカル鉄道への知事の思いを伺う。

答 ローカル鉄道の利用促進などは沿線自治体とも知恵を出し合いながら、県も取組みを支援してきた。ローカル鉄道を将来にわたり持続可能なものとしていくためには、皆で支えることも大事。地域づくりの中に鉄道利用が当たり前のようになれば、すばらしい。ローカル鉄道はかけがえのないものでもあり、地域の宝。地域づくりのためにも大切な資源、コンテンツである。引き続き、現場の状況も踏まえながら市町や鉄道事業者なども連携し、甘木鉄道も含めローカル鉄道を応援、支援していきたい。

他の質問項目▶ シニアが地域で活躍できる取組み／消防団／外国人が佐賀県で円滑に生活するための取組み



自由民主党
西久保弘克 議員
佐賀市選出



質問の様子

改正道路交通法への対応について

問 改正道路交通法施行令により、9月1日以降、中央線の無い道路の法定速度について時速30kmへ引き下げられる。県内には中央線が無くても幅員が広く見通しのよい道路などは、規制速度を引き上げたり、中央線を引いたりするなど、実際の道路環境に応じた対応が必要ではないか。警察には真に実効性のある取組みをお願いしたいがどうか。

答 議員ご指摘のとおり、地域の道路によつては、中央線が無いものの、幅員が広く見通しもよい道路など、安全対策を考慮しても、法定速度を30kmとすることがないケースも想定される。こうした道路は個別の道路環境に応じ、道路利用者や道路管理者の意見も踏まえながら、例えば道路標識や道路標示を設置して法定速度を40km以上に引き上げる、新たに中央線や中央分離帯を設置して、法定速度を60kmに引き上げる措置を講じることも考えられる。市町などの道路管理者と情報交換し、個別の道路事情に応じたきめ細かな対応に努めていく。

他の質問項目▶ 高校教育改革／企業の農業参入／フル規格整備に伴う財政負担／県職員の人材確保と定着



県民ネットワーク
江口善紀 議員
佐賀市選出



質問の様子

アライグマによる農業被害と対策について

問 近年、特定外来生物であるアライグマによる被害が県内各地で増加している。農作物の被害にとどまらず、人家への侵入や建物の破損など、生活環境を脅かす問題へと広がっている。今後、一層深刻化することが懸念される。農業被害額と捕獲頭数の推移はどのようになっているのか。被害対策の課題に今後どのように取り組んでいくのか。また、予算面で支援はあるのか。

答 農作物の被害額は令和3年度までは200〜300万円強、4年度は約500万円、5年度は約600万円、6年度は約1200万円と増加し、5年度と比較すると倍増している。捕獲頭数は、令和2〜5年度は3000頭前後で、6年度は過去最高の約4500頭を捕獲している。アライグマは捕獲従事者が少ないため、農家自身による対策の強化が必要である。野菜・果樹農家を対象に捕獲強化の研修、電気柵の設置などの予算を本議会に提案している。市町やJA、猟友会などの意見も聞きながら対策に取り組む。侵入防止対策で国庫補助対象外は、県が1/3を補助している。

他の質問項目▶ 旧海岸堤防の管理／九州佐賀国際空港の平行誘導路整備



自由民主党
中村圭一 議員
鳥栖市選出



シベリア抑留という歴史的悲劇を
授業で取り上げる(2023.10.1)

問 シベリア抑留の過酷な実態や歴史的背景を、どのような教育目標のもとで取り扱い、児童生徒にどのような学びを促していくのか？

答 また、特定の国や民族への憎悪を助長することなく、一方的な自己否定的歴史観にも陥らないよう、バランスの取れた歴史教育を実現するため、どのような指導方針や教材整備を行っていくのか？
シベリア抑留の教育は、教師の歴史認識や指導力に大きく依存する側面がある。授業を行う前段階として、しっかりとした教員研修も行うべきと考えるが、どうか？



戦争や戦乱をはじめ、歴史的な事象を教材として取り扱う際は、教員自身の価値観や歴史的評価を教え込まないこと、そして、児童生徒が偏った考え方に陥らないようにすることは極めて重要。教科書を中心に据えつつ、様々なコンテンツも有効に活用しながら歴史を学んでいくしてほしい。
未来を担う子どもたちが平和を守り、つないでいく力を育めるよう、平和に関する教育に今後ともしっかりと取り組んでまいりたい。

他の質問項目▶ 知事提案事項説明の内容／九州新幹線西九州ルート／冤罪を生まないための取組み／公職選挙法



自由民主党ネクストささ
田中秀和 議員
唐津市・玄海町選出



原子力発電所立地自治体の
地域振興について

問 玄海町は、原子力発電所立地自治体として、これまで地域振興に取り組んできた。現在では、一般社団法人玄海町みんなの地域商社による商工業の活性化や、令和8年4月にeスポーツ学科を開設した唐津青翔高校の生徒と連携した地域の課題解決や魅力発信など、様々な取組みがなされている。玄海町の地域振興に係る知事の考えを伺う。



答 玄海町には多くの地域資源がある。その中で今、将来性が期待できるのは、コスメ産業の拠点化を目指す「コスメティック構想」や、唐津青翔高校のeスポーツ学科であり、これらの分野は、今後さらなる成長が期待できると認識している。

県としては、玄海町とともに産学官連携による取組みにより、これらの構想をさらに推進し、玄海町における地域振興の大きな成功例をつくり上げたいと考えている。自発の地域づくりから、地域資源を活用したその地域ならではの取組みの芽が出てくれば、それが実を結び感じており、県としても応援を惜しまない。活力に満ちた玄海町をつくっていくため、玄海町とともに未来を見据えながら取り組んでいきたい。

他の質問項目▶ 唐津プロジェクト／コスメティック構想の進捗／虹の松原の保全と活用



自由民主党
古川裕紀 議員
神埼市・吉野ヶ里町選出



筑後川右岸下流域の排水機場に
おける老朽化対策について

問 近年、県内でも豪雨災害が頻発化しているが、内水氾濫による浸水被害を軽減するため、河川には多くの排水機場が設置されている。その中で筑後川右岸下流域に設置されている国管理の江見上流、江見下流、浮島の排水機場は設置後70年以上、建替移設の話も30年以上が経過している。設備の古さや操作の煩雑さ、担い手不足、排水能力不足、堤防高や幅の不足など多くの課題もある中、それらの解決に向けて県はどのように取り組んでいくのか？



答 低平地が広がる本県の、自然排水が困難な地域では排水機場が担う役割は非常に重要であり、多くの排水機場が整備されている。指摘のあった3施設も含め、国が管理する施設のうち4つは70年以上経過している状況にあり、課題も抱えている。令和3年8月豪雨で筑後川右岸下流域は大規模な浸水被害が発生したため、県・流域市町が連携して治水対策を検討し、今年2月に三神地区の総合内水対策計画を策定した。排水機場の老朽化対策の早期実施、必要な堤防の同時施工などを国に働きかけていく。

他の質問項目▶ 城原川ダム建設に伴う地域振興／教職員の人材確保／マイナ免許証の活用の現状と今後



自由民主党ネクストささ
池田正恭 議員
小城市選出



クリーク等を活用した
流域治水の推進について

問 県ではクリークの事前放流や田んぼダムなどの流域治水の取組みを進めているが、地域により濃淡がある。クリークの法面が急激な水位変動に耐えられるかといった点など問題もあるように感じるが、県はどのように取り組むのか。国の予算も活用し、市町と協議しながら流域治水を推進することが必要と考えるがどうか？



答 地域住民や農業者をはじめ、市町、土地改良区などの関係機関が一体となって地域資源を生かし、流域全体で取り組むことが重要。クリークについては、これまで法面対策として実施している木柵工による整備を順次完了させ、事前放流を効果的に行うためのコンクリートによる護岸整備など、流域治水にも対応できる整備を進めていく。

地域の実情を見極め、市町と協議しながら、国に対して必要な予算を要望していきたい。



他の質問項目▶ 山を守る取組み／地域防災力向上／高齢者の安全対策／県内で働く若者を増やす取組み



国民ネットワーク
酒井 幸盛 議員
唐津市・玄海町選出



世界海洋プラスチック プランニングセンターについて

問 今年の6月、唐津市波戸岬に世界海洋プラスチックプランニングセンター（プラプラ）の開業が予定されており、この地域に施設が開設されることに大変期待をしているところである。国内外から訪問してもらい、環境の大切さを感じてもらい、一人一人の行動変容につなげ、地域の一体的な盛り上がり貢献していただきたいと考えている。そこで、開業に向けた知事の思いを伺いたい。

答 プラプラは地域発で海洋プラスチック問題の解決を目指す世界で初めての拠点。世界の国々に連携を呼び掛け、様々な日本の地域、様々な国から佐賀県と一緒にやっていきたいという心強い言葉をいただいている。この共感の輪を、未来へのネットワークを世界に広げていきたい。私は、次の時代を生きる子どもたちがこの問題について学び、どのように行動していくべきかを感じ取っていただくような施設になればと思っている。周辺地域と広域的、連携的に連鎖的に結びつく施設にしたい。唐津・玄海エリアの価値を大きく高めることにつながるように仕掛けてまいりたい。

他の質問項目▶ 唐津市・厳木工業団地／佐賀唐津道路／国道202号唐津大橋／県道星賀港線及び高串港線



自由民主党
石丸 太郎 議員
武雄市選出



県内の 渇水への対応について

問 県内では昨年秋から続く少雨傾向により主要ダムの貯水率が平年を下回る状況。平成6年大渇水では県内においても時間断水が発生するなど大きな影響を受けたが今回は同等あるいはそれ以上の危機的状況になりかねない。一刻一刻と変化する状況の中、県として今後、より踏み込んだ対応が求められる。このまま少雨が続けば県民の生活や社会活動へ大きな影響を与えるのではないかと危惧しており、県では渇水対策にどのように取り組んでいくのか。

答 渇水によって断水が発生した生活への深刻な影響を避けるため、例えば筑後川水系では少雨の影響が出始めた昨年12月に、また嘉瀬川水系においても嘉瀬川ダムの貯水の減少を受けて2月、関係者と連携して渇水調整を開始するなど早め早めの対応を行ってきた。県民生活に影響が生じる事態となった場合に速やかに渇水対策が実施できるように、対策本部準備会を開催しているところであり、今後さらに厳しい状況になれば、知事トップの渇水対策本部を立ち上げ、庁内一丸となって総合的な渇水対策を講じていく。

他の質問項目▶ 県道武雄白石線の整備／SCHOOL*COOLプロジェクト／エトミデート製品などの薬物乱用による健康への影響／さがすたいるアウトドア体験事業



自由民主党
古賀 陽三 議員
佐賀市選出



「さがが園芸888運動」について

問 「さがが園芸888運動」は来年度で8年目を迎えるが、これまで多額の予算が投じられ、関連予算は年々大きくなっている。単純に費用対効果のみで評価は測れないが、多額の予算を投じている以上、一定の成果・説明を求められることも当然にあり、本来はしっかりと定着して自立する、外的要因にも左右されない足腰の強い農業が確立されるべき。これまでの取組みや運動を取り巻く現状を踏まえ、今後どのように取り組んでいくのか。

答 トレーニングファームなどの体制整備や担い手の確保、園地継承の推進等に取り組み、運動開始以降の園芸産出額は一定水準で推移しているものの、生産量を思うほど伸ばせていない。その背景として担い手人口の減少や高齢化、物価高騰、気候変動の深刻化など複合的な要因がある。このため、農地集約やさらなる機械化、気候変動に対応した栽培体系への転換、果樹園地の新たな担い手への継承などを進めることにより、園芸農業の生産量をしっかりと伸ばしていく。今後も、目標達成に向け、農家や関係者と全力で取り組んでいく。

他の質問項目▶ 多様な生活習慣病の予防を見据えた県民の健康づくり／指定管理者制度／いじめ問題等への対応



自由民主党
木原 奉文 議員
佐賀市選出



九州新幹線 西九州ルートについて

問 財政負担、在来線、地域振興、いずれの課題もルートに大きく影響される。佐賀駅ルートと仮置きするだけで複雑に絡み合う度合いも減り解決に一步近づくと。県民アンケート等でも佐賀駅ルートを推す声が圧倒。なぜ南回りが理解できるよう考えを示すべき。与党がフリーゲージトレインを断念して早や8年が経とうとしており時間的損失こそ佐賀県の将来を大いに毀損する。少ないメリットに見合った負担軽減や在来線の利便性を早期に勝ち取るのが知事に与えられた使命と考える。

答 1400億円以上の実質負担は県の財政計画上到底収まらず、県政運営上不可能。安易に踏み出すことは取り返しのつかないことになる。新鳥栖・武雄温泉間は、ルートはもとより、フル規格で整備することも決まっていない。ルート一つとっても様々な意見をいただいている。南ルートは、仮に佐賀県や九州全体の将来展望につながる議論ができれば、一考に値するという趣旨。今、水嶋国交次官も含めて各方面と様々なチャンネルで幅広く議論し交渉している。

他の質問項目▶ 衆議院議員総選挙の結果の受け止め／県立大学／風通しのよい組織づくり

総務
常任委員会



付託議案27件のうち、25件が原案可決、1件が承認、1件が同意されました。

【主な付託議案】

- ・一般会計予算関係分
- ・職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例
- ・人事委員会委員の任命について

【主な質疑事項】

- ・マリンアクティビティの創出について
- ・県立大学について
- ・肥前鹿島駅周辺整備事業について
- ・財政の健全性について
- ・佐賀県公安委員会会議録について
- ・フェムケア休暇について など

【現地視察の様子】



吉野ヶ里歴史公園
吉野ヶ里歴史公園官民連携プロジェクトの概要等

文教厚生
常任委員会



付託議案20件が原案可決されました。

【主な付託議案】

- ・一般会計予算関係分
- ・産業廃棄物等の適正な処理に関する条例
- ・高等学校等教育改革促進基金条例

など

【主な質疑事項】

- ・いじめについて
- ・司書県さが推進事業について
- ・「心のサポーター」養成事業について
- ・幼児が健やかに育つ環境づくりについて

など

【現地視察の様子】



多機能型支援センターそら
就労継続支援事業所の取組

農林水産商工
常任委員会



付託議案21件が原案可決されました。

【主な付託議案】

- ・一般会計予算関係分
- ・工業用水道事業会計予算
- ・豊かな山を未来へつなぐ条例

など

【主な質疑事項】

- ・これからの企業誘致の取組について
- ・筑後川下流土地改良事業について
- ・プレミアム商品券発行支援事業について
- ・農地の集約について

など

【現地視察の様子】



林業試験場
サガンスギ苗木生産者
トレーニングセンターの研修状況等

地域交流・
県土整備
常任委員会



付託議案12件が原案可決されました。

【主な付託議案】

- ・一般会計予算関係分
- ・土地取得特別会計予算関係分
- ・道路公社定款の一部変更について

など

【主な質疑事項】

- ・佐賀県の移住施策について
- ・吉野ヶ里歴史公園の今後の展望と「魅せる収蔵庫」の整備について
- ・山を大切に作る取組について

など

【現地視察の様子】



国道208号有明海沿岸道路大川佐賀道路
諸富IC付近～(仮称)川副IC付近
道路工事の進捗状況



お祈りになった
ご感想やご意見を
お寄せください

「さが県議会だより」の
次号は、9月1日発行です。

UD
FONT
見やすいユニバーサル
フォントを採用しています。

特別委員会
**佐賀空港・有明海
問題対策等**



3月11日

「佐賀駐屯地に係る施設設備の整備状況等」及び「海水混合施設に係る施設概要等」について現地視察が行われ、その後、県執行部に対する質疑が行われました。

【主な質疑事項】

- ・九州佐賀国際空港について
- ・佐賀駐屯地について
- ・九州佐賀国際空港の平行誘導路の整備について
- ・有明海的环境変化に対応したノリの安定生産の取組について
- ・佐賀空港の自衛隊使用について
- ・有明海の漁業振興について

など

【現地視察の様子】



海水混合施設（国造瀬）
海水混合施設に係る施設概要等について

特別委員会
**新幹線・地域交通
問題対策等**



3月10日

九州旅客鉄道株式会社取締役常務執行役員の松下琢磨氏を参考人として招致し、九州新幹線西九州ルート及び在来線について、意見を述べていただき、質疑が行われました。

【主な質疑事項】

- ・九州新幹線西九州ルートの整備に係る、今後の整備方針やルート、佐賀県との向き合い方
- ・並行在来線の利便性の確保と将来像
- ・「未来鉄道プロジェクト」における鉄道事業の構造改革
- ・運転士や保線作業員の状況
- ・新幹線収入の比率の低さが経営に与える影響及び、不動産投資の考え方
- ・地元三者トップや佐賀市長との意見交換及び、新幹線沿線自治体とのコミュニケーション機会の創出

など

【質疑の様子】



特別委員会
**高等教育機関
問題対策等**



3月12日

県立大学の検討に係る専門家チームリーダー山口和範氏を参考人として招致し、県立大学構想について、意見を述べていただき、質疑が行われました。また、その後、県執行部に対する質疑が行われました。

【主な質疑事項】

- ・一般選抜が学校推薦型選抜や総合型選抜より募集定員の割合が少ない理由とその弊害
- ・学生の熱量を測るための方策
- ・公募以外による教員の採用方法
- ・カリキュラム内容から見える専門職の現場に対してマネジメント面から貢献できる人材の具体的なイメージ
- ・地域のシンクタンク機能が佐賀県にもたらす効果
- ・小中高校と民間企業との連携強化
- ・県内の短期大学の現状及び短期大学が抱える課題
- ・武雄アジア大学の入学希望者数と入学者が決定するまで公表しない理由

など

【質疑の様子】



佐賀県議会会議録

平成11年以降の
会議録を検索できます

インターネット中継

本会議（委員会）の様子を
リアルタイムで視聴できます
（開会中のみ）

録画放送

インターネット中継の日から
4営業日後を目途に
公開しています（土日祝除く）

令和元年以降の
映像を公開
しています！